

令和6年度 東日本大震災アーカイブシンポジウム

震災アーカイブが残すべき「記録」と「記憶」について

開催のお知らせ

国立国会図書館と東北大学災害科学国際研究所は、令和7年1月11日に「東日本大震災アーカイブシンポジウム」を開催いたします。

令和6年1月に発生した能登半島地震の被災地では、復旧・復興の活動が進められるとともに、新たに震災関連資料のアーカイブ構築に向けた取組も始まっています。他方、令和7年1月には阪神・淡路大震災から30年の節目を迎え、新潟県中越地震からは20年、東日本大震災からも10年以上が既に経過しています。この間、様々な震災アーカイブが構築・運営されてきました。しかし、時間の経過とともに存続が危ぶまれるアーカイブも生まれ、震災アーカイブの意義や役割といった本質的な問題が、今改めて問われています。

本シンポジウムでは、近年震災アーカイブに関する業績をお持ちの研究者をお招きし、阪神・淡路大震災以降の震災アーカイブの歩みや、社会や歴史における災害の位置づけ等にも話題を広げつつ、震災アーカイブの意義や役割、そして残すべき「記録」や「記憶」について議論します。

■ 日時、申込方法等

日時：2025年1月11日(土) 13時から16時まで(開場:12時30分)

会場：東北大学災害科学国際研究所多目的ホール
(宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉468-1)

主催：国立国会図書館、東北大学災害科学国際研究所

後援：デジタルアーカイブ学会

開催方法：現地開催のほか、事前登録者に対してオンラインで同時配信(Zoom)

参加費：無料

定員：会場120名、オンライン300名(先着順)

申込み：下記URLのシンポジウム案内にある申込フォームよりお申し込みください。

<https://www.shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp/symposium/20250111/>

(東北大学災害科学国際研究所・みちのく震録伝)

問合せ先：東北大学災害科学国際研究所 災害人文社会研究部門 災害文化アーカイブ研究分野
(担当：柴山、小野)

電話番号：022(752)2099 E-mail アドレス：archiveforum@irides.tohoku.ac.jp

■ プログラム(敬称略)

(1) オープニング

- ・ 開会の挨拶

東北大学 災害科学国際研究所 所長 栗山 進一

- ・ 趣旨説明

東北大学 災害科学国際研究所 教授 今村 文彦

(2) 研究報告

- ・ 災害対応史と日本災害デジタルアーカイブの活用

専修大学 ネットワーク情報学部 教授 佐藤 慶一

- ・ 防災志向型デジタルアーカイブの問題点の整理と提案 —「災間の社会」における震災アーカイブの意義を更新する—

情報科学芸術大学院大学 産業文化研究センター 研究員 高森 順子

(事前に収録した動画での講演となります。)

- ・ ニュージーランド・カンタベリー地震関連資料と震災アーカイブ

神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 教授 水本 有香

(3) 進捗報告

- ・ 震災アーカイブポータル「ひなぎく」の役割と現況

国立国会図書館 電子情報部 主任司書 小林 芳幸

- ・ 近年の自然災害のデジタルアーカイブについて

東北大学 災害科学国際研究所 准教授 柴山 明寛

(4) パネルディスカッション

- ・ 震災アーカイブが残すべき「記録」と「記憶」について

ファシリテーター：東北大学 災害科学国際研究所 准教授 柴山 明寛

パネリスト：佐藤 慶一、水本 有香、小林 芳幸

(5) クロージング

- ・ 閉会の挨拶

国立国会図書館 電子情報部 主任司書 小林 芳幸